

気候、生物多様性及び海洋に関するビアリッツ議長総括
(骨子)

- 議長国は、緊急対策を要するとの有力な科学的証拠がこれまで繰り返し提示されてきたことを強調。IPBES 報告書においては、陸・海の利用における変化、気候変動及び汚染が生物多様性の喪失の主要な原因の一部であると考えられている。
- 議長国は、気候変動、生物多様性の喪失及び海洋・陸地の劣化は関連し合う 3 つの主要な地球規模の課題であり、平和、安全保障、開発、保健及び経済的安定を特に最も脆弱な国々において脅かすことを想起。
- 首脳は、国連事務総長から、2019 年 9 月 23 日に主催する気候アクション・サミットについて説明を受けた。議長国は、幾つかの関係国が、パリ協定に基づき自国が決定する貢献 (NDC) の野心を 2020 年までに全体として引き上げる用意があると既に表明したことに留意。G7 の幾つかの国は緑の気候基金 (GCF) の増資に対する野心的な貢献を表明し、その総額は 55 億米ドルに達している。首脳は、G20 大阪首脳宣言で最近一致したとおり、技術革新を通じて、環境と成長の好循環を加速化させ、強じんて、包摂的で、持続可能な将来への転換を主導することの重要性を再確認。
- 首脳は、G7 メッス生物多様性憲章を承認し、G7 及び G20 の下の作業の継続として、循環経済等を通じた海洋・陸上生態系を保護、及び、海洋ごみとの闘い、並びに、海洋ごみを減少させる鍵となる手段としてのイノベーションの促進及び廃棄物管理の改善の必要性を認識。首脳は、最近の G20 大阪ブルー・オーシャン・ビジョン及び G20 海洋プラスチックごみ対策実施枠組の採択を歓迎。
- 議長国は、若者の積極的な動員、並びに、具体的なマルチステークホルダーにより具現化された解決志向の行動の必要性に肯定的に言及。
- 首脳は、市民社会代表から、気候、生物多様性及び海洋に関する 4 つのマルチステークホルダーの連合、すなわち、「気候及び環境のための海洋連合」、「効率的な冷却に関する迅速な行動のためのビアリッツ・プレッジ」、「持続可能なファッション連合」、「生物多様性のためのワンプラネット・ビジネス連合」について情報提供を受けた。